

2025年度春学期 授業評価アンケート総括

概要

専門科目、教養科目、外国語科目の3区分において、授業評価アンケートの分析に基づき、以下の観点から報告書としてまとめた。

- ①全体傾向
- ②新規／改修科目・その他実施した施策の評価
- ③分析結果に基づく今後のアクションプラン

1. 専門科目における分析結果

① 全体傾向

24年秋学期と比較して、満足度は4.10から4.11へ微増し、推奨度は4.09と高い水準を維持している。教員の丁寧な指導や授業設計の改善が学生から高く評価されており、フィードバックに対するポジティブなコメント率が前学期の29.0%から39.3%へと急増したほか、課題が理解の促進に役立っていることがうかがえる。

② 新規／改修科目・その他実施した施策の評価等

- **新規開講科目:**
新設「生成AI概論」は559名という多数の受講者を集めながらも学習体験スコア4.23の高水準を記録し、学生の高い関心に質の高い教育で応えられている。
- **改修科目:**
改修を実施した6科目全体で満足度（4.12→4.15）と推奨度（4.11→4.13）が向上した。特に、「ITプロジェクトマネジメント演習」等における「内容のわかりやすさ」の改善（+1.44%）が全体を牽引している。

③分析結果に基づく今後のアクションプラン

- **講義科目:**
応用科目（3年配当）のポジティブな評価が高い（90%超）一方、「プレゼンテーション品質」のスコアが低下傾向（0.17→0.10）にあり、資料の視認性や説明の明瞭さの再点検を今後の改修を通じて実施していく。
- **演習科目:**
TAを含めたサポート体制が機能しており、支援スコア（Support）は4.02と良好である。引き続き、適切な学習支援を行う。
- **卒業研究科目:**
満足度・推奨度ともに他の科目区分を超える高水準（4.31）を記録した。学生と指導教員間の連携が深まり、DP指標の「コラボレーション」が約5ポイント向上している。引き続き、質の高い学習体験が得られるよう努める。

2. 教養科目における分析結果

① 全体傾向

学内目標である授業満足度4.00に対し、講義科目全体の平均は4.15、演習科目は4.10といずれも目標をクリアし、直近3学期にわたり高い水準で推移している。特にキャリアデザイン分野は、13科目中7科目が3学期間継続して平均以上の満足度を達成しており、本学学生の社会的・職業的自立に向けた学習ニーズの高さが窺える。

② 新規／改修科目・その他実施した施策の評価等

- **新規科目および全面改修科目:**
新規の「SDGs入門」(4.21) および「政治学入門」(4.23)、全面改修の「コンビニ経済学」(4.31)等がいずれも全体平均を上回る高評価を獲得し、順調な滑り出しと継続的な質の維持を実現している。

③ 分析結果に基づく今後のアクションプラン

- **一部科目の抜本的見直し:**
満足度が3点台に留まる科目については、内容の陳腐化等に対応するため既に廃止した科目があり、それ以外の科目も再収録を通じた大きな内容改修を予定している。また、部分改修に留まった「我々の宇宙」(4.01)は、内容の難易度やスライドの分かりにくさが指摘されており、更なる改善が必要である。
- **フリーコメントに基づく改善:**
キャリアデザイン分野等の複数の科目において、「音声小さい・ノイズ等の音質問題」「参考資料(データ)の最新化」「より実践的・演習的な内容の追加」を求める声が共通して挙げられており、次回の改修・再収録における重点対応ポイントとする。

3. 外国語科目における分析結果

① 全体傾向

満足度(5段階評価)は、英語科目が平均3.92(24秋3.88)、中国語科目が平均4.12(24秋4.13)となった。英語科目で「科目コンテンツにおいて良かった点」では、ライティング課題の選択率が14.89%(24春)から17.54%へ約2.65ポイント上昇した。学習環境(CU ENGLISH)の操作性や学習の進め方に関する学生の初期のつまずき(オンボーディングの課題)に対し、運用面でのサポートを継続的に見直してきた結果、学生からポジティブな意見が多く寄せられるようになった。

② 新規・改修・その他実施した施策の評価等

- **ガイダンスの改善:**
オリエンテーション資料の視認性を高め、解説動画を公開することで、初期設定に関する分かりやすさが向上した。

- **学習コンテンツの拡充:**
復習機能が不足しているという指摘に対し、基礎英語Ⅰでの学習補助資料の設置、中級英語Ⅰでの文法解説、上級英語でのポイント解説を導入し、学習の振り返り（復習）環境を大きく充実させた。またCU ENGLISHの標準機能以上のより実践的なライティング課題とより精緻なフィードバックを導入した。
- **グループレッスン（英会話）の改善:**
これまで必修、難易度が高すぎたり、読み書き中心のテストなためレベルを過度に引き上げたりする課題があった「レベル確認テスト」を任意課題に変更し、科目ごとに一律のレベル設定を導入した。これにより、参加への心理的ハードルが下がり、「レッスンが楽しい」「画期的である」といった良好な反応が得られている。

③ 分析結果に基づく今後のアクションプラン

- 学習環境（CU ENGLISH）の操作性や学習の進め方に関する学生の初期のつまずき（オンボーディングの課題）に対し、運用面でのサポートを抜本的に見直し、特に基礎英語Ⅰの学習継続を促す。
- 継続的な学習を促すため、2026年春学期に向けた授業構成の改修を進行中である。